

奈良県立医科大学附属病院
新A棟整備基本構想
(概要版)

令和5年3月

1. はじめに

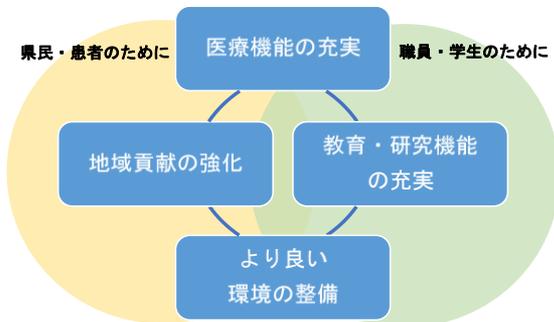
- 当院の現A棟(外来棟)は、施設の老朽化や狭隘化等により、**施設・設備の再整備として「新A棟」への建替え**が必要な状況にある。このため、建替えにあたり、**当院が今後担うべき役割や機能の方向性について、「新A棟整備基本構想」として取りまとめた。**
- 新A棟は、現状を踏まえ、以下により検討する。
 - ① 既存棟(外来棟)の更新と機能強化
 - ② 管理棟等の耐震対応
 - ③ 診療機能の補充

2. 新A棟整備の基本方針

- ・ 新A棟建設は単なる外来棟建替えではなく、**将来当院が担うべき機能を効率よく発揮するため、既存棟も含めた機能の再編と最適化を図るもの。**
- ・ 県民の最終ディフェンスラインであり続けるとともに、**健康寿命の延伸に寄与し、患者と職員に寄り添った施設とする。**

3. 新A棟整備のコンセプト

- 新A棟では、「**医療機能の充実**」、「**地域貢献の強化**」、「**より良い環境の整備**」、「**教育・研究機能の充実**」の4つのコンセプトを掲げ、**県民・患者のため、職員・学生のために安全で質の高い医療・教育を提供できる病院の実現を図る。**



4. 4つのコンセプトの詳細

【1. 医療機能の充実】

(1) 外来機能の適正化・強化

〈県民・患者のために〉

- 現状の外来機能の適正化
- 外来診療機能の更なる強化・拡充、診療環境の改善
- 地域住民が質の高い医療を安心して効率的に受けることができる外来診療を提供
- 一般の病院では対応できない疾病・病態に対する高度な外来診療を提供する体制を強化
- 今後益々需要が高まる「在宅医療」の後方支援の充実

(2) 患者を中心に考えた環境・動線の整備

〈県民・患者のために〉〈職員・学生のために〉

- 患者が快適に待ち時間を過ごせる環境整備（どの患者にも使いやすい患者呼出システム、患者サロンによる医療情報の提供、キッズルームの設置、コンシェルジュの配置等）
- 高齢者や子供、障がい者等、全ての利用者にとって使いやすいユニバーサルデザインの採用
- わかりやすいサイン計画
- 患者利便施設（コンビニ・カフェ等）の充実
- ICT・IoTの活用
- 診察室のフリーアドレス化
- 画像診断部門・中央臨床検査部門を集約配置し、患者にとってわかりやすい動線を確保
- 入院患者の動線を考慮し、既存棟から新A棟へ最短でアプローチできる動線を確保
- 「患者支援センター（仮称）」を設置し、各種相談・説明・指導・入退院手続き、情報提供、地域連携等の窓口機能を一元化することで、ワンストップによるサービスを提供

(3) 外来低侵襲治療の強化

〈県民・患者のために〉

- 患者の身体的・精神的負担を軽減させる低侵襲の治療・手術を強化するため、外来低侵襲治療センターを設置
- 外来低侵襲治療センターは、デイスージャリーセンター(日帰り手術センター)や日帰りIVR(画像下治療)センター機能等で構成
- 比較的体への負担が少ない治療や手術を入院せずに外来で実施
- 患者の多様なニーズに寄り添った医療を提供

4. 4つのコンセプトの詳細

(4) 感染症対策の強化

《県民・患者のために》《職員・学生のために》

- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）等の新興・再興感染症の流行に備え、感染症発生初期・感染患者爆発期・収束期といったあらゆるフェーズにフレキシブルに対応した感染症外来・病棟を整備

(5) 救急医療提供体制の強化

《県民・患者のために》《職員・学生のために》

- 県民にとっての最終ディフェンスラインとして広範・高度に対応できる救急医療提供体制を強化
- 救急医療の効率的な運用を目指すため、高度救命救急センター、救急外来（ER）、各科救急、救急集中治療室（ICU）、救急ハイケアユニット（HCU）等、全ての救急機能を集約して配置
- 手術室へ患者をスムーズに搬送できる動線を確認するため、ドクターヘリが離発着可能なヘリポートを整備

(6) 災害時医療提供体制の強化

《県民・患者のために》

- 基幹災害拠点病院として、大規模災害発生時においても診療機能を継続できる施設・設備を整備
- 新A棟は、当院の災害時診療機能の中核を担う建物になることから免震構造とし、大規模地震にも耐えうる施設を整備
- 自衛隊・DMATの待機も可能なスペースの確保

(7) 地域医療需要の変化への対応

《県民・患者のために》《職員・学生のために》

- 地域住民の高齢化や地域医療提供体制の再編等に伴い、今後更に増加及び集約化が見込まれる手術件数に対応するため、手術室の増設に向け検討
- また、手術室・手術件数の増加に伴い、重症系病床（ICU・HCU）の増床に向け検討
- 増設する手術室には、マルチモニターカメラを付けて術野を見学することができるシステムを整備することにより、学生や研修医が手術室に入室せずに手術を見学できる環境を整備し、教育機関としての機能の充実

【II. 地域貢献の強化】

(1) 県民の健康増進・予防医学の充実

《県民・患者のために》

- 「がんにならない、がんになっても安心できる奈良県」を実現するため、早期発見等のがん予防や、早期治療の強化
- 「健康寿命の延伸」に寄与するために予防医学全般の充実

- 予防医学を担う人材育成のための機能を充実
- 全ゲノム解析等を活用した早期診断、新たな治療法の開発

(2) 地域の医師・医療従事者に対する教育機能の強化

《職員・学生のために》

- 教育の対象を地域に拡大し、スキルスラボや講義室・研修室を有効活用した研修会等の開催
- 医療技術の維持や新たな技術の習得を目指す等、地域の医療レベル向上に寄与

(3) 地域連携機能の強化・在宅医療支援機能の強化

《県民・患者のために》

- 特定機能病院として、地域の病院や診療所との紹介・逆紹介機能をより一層強化し、地域包括ケアシステムにおける当院の役割を強化
- 在宅医療を提供する地域の医療機関等の後方支援病院として、在宅患者の容態悪化時における入院・救急対応や在宅医療への橋渡しの役割（ICT・IoT等の活用）を担当
- 在宅医療支援機能を強化
- 患者の身体的苦痛、精神心理的苦痛、社会的苦痛等の緩和を目的とした緩和ケア病床の設置を検討
- 地域医療機関と連携し、終末期医療への橋渡しの役割を強化、終末期に対応できる人材の育成

【III. より良い環境の整備】

(1) 患者満足度の一層の向上

《県民・患者のために》《職員・学生のために》

- 庭園、カフェ、イートインスペースといった患者利便施設の充実
- 高齢者や子供、障がい者等、全ての利用者にとって使いやすいユニバーサルデザインの採用
- わかりやすいサイン計画
- ICT・IoTの活用
- 療養環境の充実、屋外リハビリテーションコースの設置
- 「患者支援センター（仮称）」を設置し、各種相談・説明・指導・入退院手続き、情報提供、地域連携等の窓口機能を一元化することで、ワンストップによるサービスを提供（再掲）

(2) より良い労働環境の構築

《職員・学生のために》

- 職場環境・労働衛生・臨床教育環境の改善

4. 4つのコンセプトの詳細

(2) より良い労働環境の構築 (※前項の続き)

- 自己研鑽に励むことのできるスペースの確保
- 職員アメニティの充実
- ①職員同士が交流できるラウンジ、②職員も利用可能な展望レストランやカフェ、③Web会議に対応した会議室・個室、④職員用シャワー室、⑤職員用仮眠・休憩室の設置等を検討
- 医師以外の医療従事者の利用を想定した中央更衣室を設置
- 不足しているロッカーや更衣室を充足
- 各棟に分散して配置されている事務部門を集約

【IV. 教育・研究機能の充実】

(1) 教育機能の充実

《職員・学生のために》

- 「学生講義室」をはじめとし、臨床実習生・研修医・職員のスペースや設備等を確保することで、学生や医療者から「選ばれる施設」を目指した教育機関としての機能の充実

(2) 地域の医師・医療従事者に対する教育機能の強化 (再掲)

- 教育機関として、教育の対象を地域に拡大
- 地域の医師・医療従事者に対する教育機能の強化
- スキルラボや講義室、研修室、設備等、教育機関としての機能の充実
- 研修会等を通じて地域に対する教育機能を強化

(3) 研究機能の充実

《県民・患者のために》《職員・学生のために》

- 奈良県立医科大学の特色を活かした臨床研究を推進していくための設備・機能（臨床研究ラボ等）を充実
- 研究マインドを持つ医師の育成及び確保
- 様々な知を集約する拠点（研究機能）を整備
- トランスレーショナルリサーチ（橋渡し研究）の体制を構築
- 基礎研究と臨床研究が活発なディスカッションができる機能・設備を整備

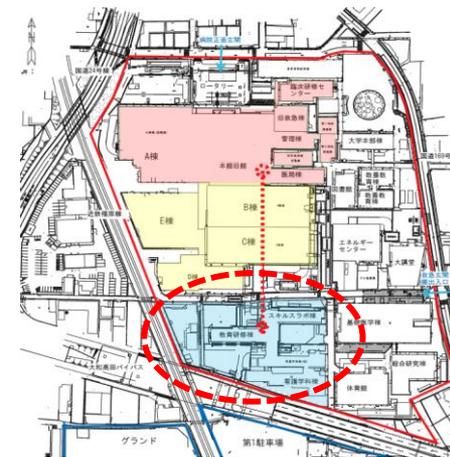
(4) 産学連携機能の強化

《県民・患者のために》《職員・学生のために》

- 産学連携の強化に必要な諸室・設備の充実
- 周辺に健康・医療関連産業を呼び込み
- 県民のQOL（生活の質）の向上に繋がる技術革新

5. 新A棟建設候補地

- 新A棟新築整備の建設想定エリアとしては、敷地形状のまともり、既存棟との近接性を考慮し、現教育研修棟、スキルラボ棟、看護学科棟跡とする。
- 建設想定エリア面積は既存教育研修棟、スキルラボ棟、看護学科棟敷地及びC棟との連絡部分とする。



6. 継続して取り組む課題

- 今後基本計画段階においてはさらに具体的に検討し、計画の具体化を進める。継続して取り組む課題は以下を想定している。
 - ① 新A棟に必要な機能及び運用面をより具体的に検討する。
 - ② 既存棟の改修を含めた全体最適のマスタープランづくりを行う。
 - ③ 31m高度地区の緩和の検討を行う。
 - ④ 場内の里道・水路の整理を行う。
 - ⑤ 新駅整備及び医大周辺まちづくりの検討に合わせた整備を行う。

7. 事業スケジュール (予定)

- 令和13年度の竣工を目標とする。

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
新A棟整備計画	基本構想	基本計画	基本・実施設計								
新A棟予定地 (教育研修棟・スキルラボ棟・看護学科棟)				移転	解体・土壌汚染調査 発掘調査			建設			竣工 移転
新キャンパス整備		先行整備建設		竣工							